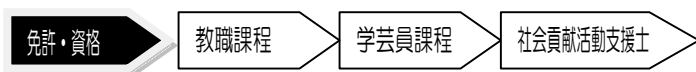


免許・資格について



1 本学で取得できる、あるいは、受験資格の優遇措置を受けている免許・資格一覧

(2015年度入学生適用)

※資格課程	種別	学校認定	学部 学科 免許・資格	先進工学部					工学部				建築学部			情報学部		備考
				生命化学科	応用化学科	環境化学科	応用物理学科	機械理工学科	機械工学科	機械システム工学科	電気システム工学科	情報通信工学科	まちづくり学科	建築学	建築デザイン学科	コンピュータ科学科	情報デザイン学科	
●	国	■	中学校教諭一種						●	●	●	●		●		●	●	免許取得 教職課程の手引参照
●	国	■	高等学校教諭一種			●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	
●	国	■	学芸員	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	資格取得 学芸員課程の手引参照
●	民	■	社会貢献活動支援士	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	●	●	▲	▲	受験資格 社会貢献 活動支援士の手引参照 ▲他学科履修で可能
	国	■	技術士(技術士補) JABEE認定プログラム					●	●	●								JABEE ハンド ブック参照
	民		PE (Professional Engineer)	●	●	●	●	●	●	●	●	●						受験資格
	国	■	電気主任技術者 (第1～3種)								●							学修ガイダンス参照
	国		第2種電気工事士	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	筆記試験免除 学修ガイダンス参照 ▲他学科履修で可能
	国	■	無線従事者(学校認定) (第1～3級総合、第1・2級陸上、 第1・2級海上)									●						受験科目一部免除 学修ガイダンス参照
	国	■	無線従事者(長期型) (第1級陸上特殊・第3級海上特殊)									●						免許取得 学修ガイダンス参照
	国	■	電気通信主任技術者								●	●						受験科目一部免除 学修ガイダンス参照
	国	■	1級建築士										●	●	●			受験資格 履修課程表参照
	国	■	2級建築士 木造建築士										●	●	●			受験資格 履修課程表参照
	国	■	施工管理技士 (建築、電気工事等)						●	●	●		●	●	●			受験資格 資格の手引参照
	民	■	インテリアプランナー										●	●	●	予定		登録資格 資格の手引参照
	国		建築設備士					▲	●	▲	▲	▲	▲	●	▲			受験資格 資格の手引参照
	民		設備士 (空調調和・衛生工学会)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	受験資格 資格の手引参照
	国	■	食品衛生管理者		●													資格取得 履修課程表参照
	国	■	食品衛生監視員		●													資格取得 履修課程表参照
	国		危険物取扱者(甲種)	●	●	●												受験資格 資格の手引参照
	国		毒物劇物取扱責任者	●	●	●												登録資格 資格の手引参照

2 課程申請を行う必要のある資格

下記の資格取得を希望する学生は、それぞれの課程説明会に参加し、期日内に申込み手続きを行うこと。

免許・資格	課程名	授与機関
教員免許状 (中学校・高等学校教諭)	教職課程	都道府県教育委員会
学芸員	学芸員課程	工学院大学
社会貢献活動支援士	社会貢献活動支援士課程	社会貢献学会

3 資格課程とは

総合教育科目や所属学科の専門共通科目、専門科目とは別に、免許・資格を取得するために必要な知識や技能等を、講義や実習・演習といった授業科目とし開講しているのが資格課程である。

本学には、資格課程として教員免許取得のための教職課程、博物館学芸員取得のための学芸員課程、社会貢献活動支援士の受験資格取得のための社会貢献活動支援士課程がある。これら資格課程が開講する免許取得、資格取得、受験資格取得のための授業科目には、卒業するための要件とは異なる必修・選択の区分があり、単位修得方法にも決まりがある。

4 履修における留意事項

免許取得に必要な科目は広範にわたっている。そのため、計画的に履修することが肝心である。

資格課程履修に際しては、それぞれの手引き（入学年度発行のもの）を基本と考え、以下の点に留意し、履修すること。

(1) 通達・告示・通知・連絡

資格関係の通達・告示・通知・連絡はすべて、掲示にて行う。常に掲示板（キューポート・新宿校舎地下1階・八王子校舎17号館）を確認し、大切なお知らせを見落とすことのないよう、注意すること。

(2) 説明会・ガイダンス等

説明会・ガイダンス等は、原則として欠席は認められない。やむを得ず出席できない場合は、必ず事前に担当部署へ連絡すること。

(3) 諸手続き

- ① 手続きの期限は厳守すること。
- ② 本人控の書類等は、大切に保管しておくこと。
- ③ 納入した諸費用（課程登録費・実習費等）は、原則として返還しない。



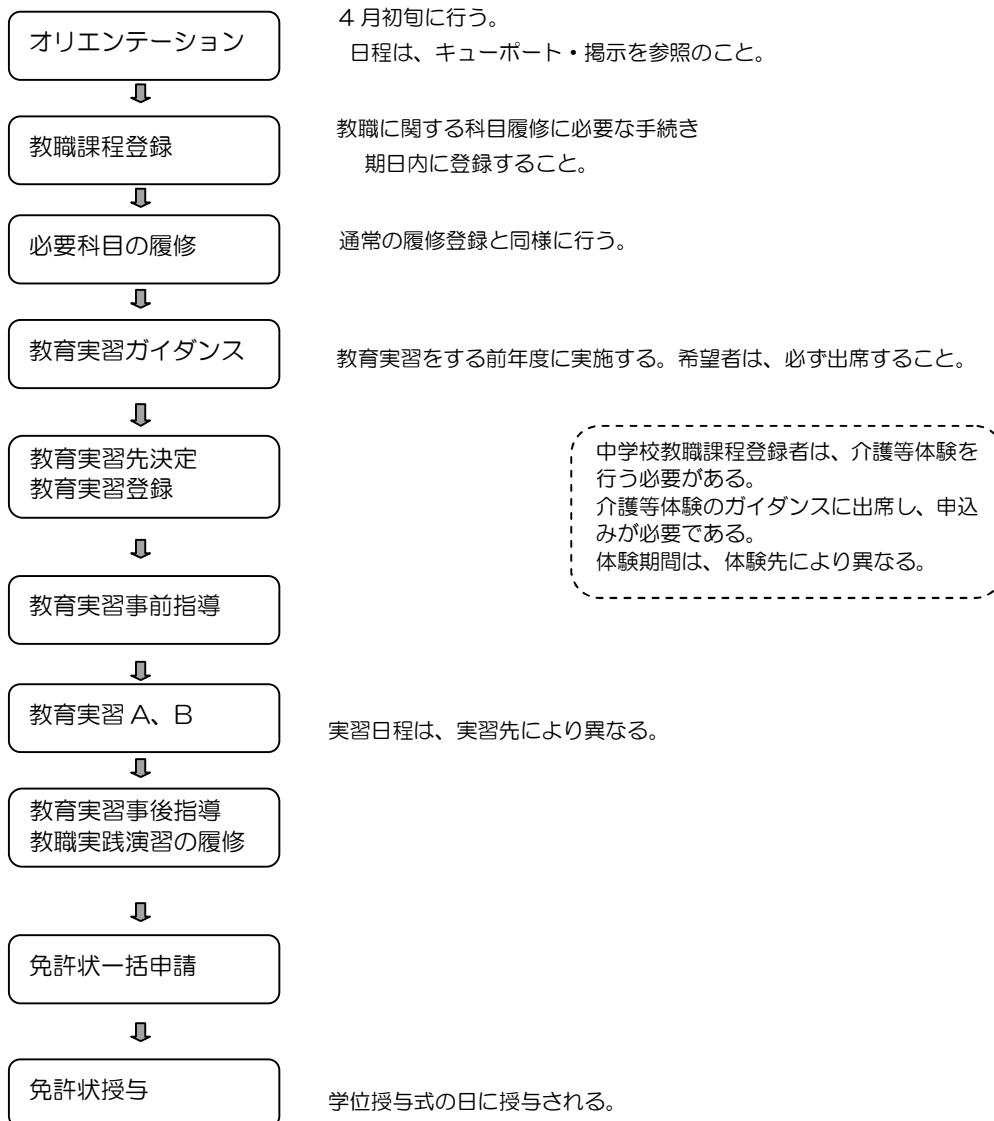
1 教職課程 (Teacher Training Course)

教職課程とは、教員に必要な教育職員免許状を取得するための課程である。

この課程は、将来教員になるためのカリキュラムであり、履修者は、学科の卒業要件を満たす必要があるほか、教職特有の授業科目の履修、学外で行うことが必要である。

教員免許状取得のためには、必ず『教職の手引き』を参照すること。

2 教職課程の登録～免許状授与までの流れ



③ 教職課程の登録

教職に関する科目を履修するには、教職課程登録をしなければならない。登録は何年次でも可能だが、登録希望者は、毎年4月初旬に行われる教職課程オリエンテーションに出席すること。

教職課程登録に必要なものは、以下のものである。

- － 教職課程登録票（所定書式）
- － 教職課程費（いったん納入した教職課程費は返却しない）
免許1教科：12,000円
免許2教科：15,000円
免許3教科以上は、1教科増えるごとに3,000円プラスする。

④ 必要な単位数

(1) 教育職員免許法第5条別表第1の規定による「教科に関する科目」、「教職に関する科目」および「教科又は教職に関する科目」の最低修得単位数は次のとおりである。

免許状の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目
中学校教諭1種	「学士」の学位を有すること	20	31	8
高等学校教諭1種			23	16

(2) 教育職員免許法施行規則第66条の6に規定されている科目は次のとおりである。

免許法施行規則に定められている科目	単位
日本国憲法	2
体育	2
外国語コミュニケーション	2
情報機器の操作	2

※実際の取得単位数とは異なる。詳細は、『教職の手引き』を参照のこと。

⑤ 介護等体験について

中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者は、「小学校及び中学校教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」で「特別支援学校（盲学校、聾学校若しくは養護学校）（2日間）と社会福祉施設（5日間）で障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験」が義務づけられている。

本学では、介護等体験を2年次以上で実施出来るが、その手続きは年度初めに行うので、ガイダンスに必ず出席すること。

⑥ 教育実習について

教職に関する科目のうち、「教育実習」の単位については大学での授業を受けるほか、実習校において教育実習を行うことが必要となる。実施前年度に教育実習登録方法、実施年度に教育実習手続についてガイダンスを行うので必ず出席すること。

免許状別実習校および実習期間・時期

免許状の種類	実習校の種別	実習期間	実習時期
中学校教諭1種（高等学校教諭1種を併せて取得する場合を含む）	中学校 または 高等学校	3週間以上	5月～11月 (実習校指定)
高等学校教諭1種		2週間以上	

教育実習費

免許状の種類	履修科目	教育実習費
中学校教諭1種（高等学校教諭1種を併せて取得する場合を含む）	「教育実習 A」「教育実習 B」	26,000 円
高等学校教諭1種	「教育実習 A」	13,000 円

（いったん納入した教育実習費は返却しない）

7 教員免許状の申請手続

原則として東京都に教員免許状を申請し、学位授与式の日に配付する。申請手続時に免許状授与手数料を徴収する。ガイダンスに必ず出席すること。

8 教職特別課程 (Special Course for Teacher Training)

1990(平成2)年度から教育職員免許法の改正により、教職に関する科目の単位を修得させるため、教職特別課程（修業年限1年の課程）を開設した。〈募集対象：本学以外の大学卒業生で、教職に関する科目を修得していない者。詳細は「教職特別課程学生募集要項」参照。〉

この課程で取得できる教員免許状の種類、教科は次のとおりである。

課程名 \ 種類	中学校一種・専修	高等学校一種・専修
教 職 特 別 課 程	技 術 科 学 理 数	工 業 科 学 理 数 情 報

基礎資格：一種免許状は、学部卒業者に限る。

専修免許状は、大学院修了者または学部卒業後専攻科に1年以上在学し、30単位以上修得した者に限る。

この課程に入学した学生は、

- (1) 学部学生に準じ、大学の施設・図書館等の利用が認められる。
- (2) 履修登録は、学部学生に準じて行うこと。
- (3) 修学は、教職課程教員の指導のもとに行う。
- (4) 学則その他の諸規定を遵守しなければならない。

なお、不明な点は、学習支援課（12F）に問い合わせること。

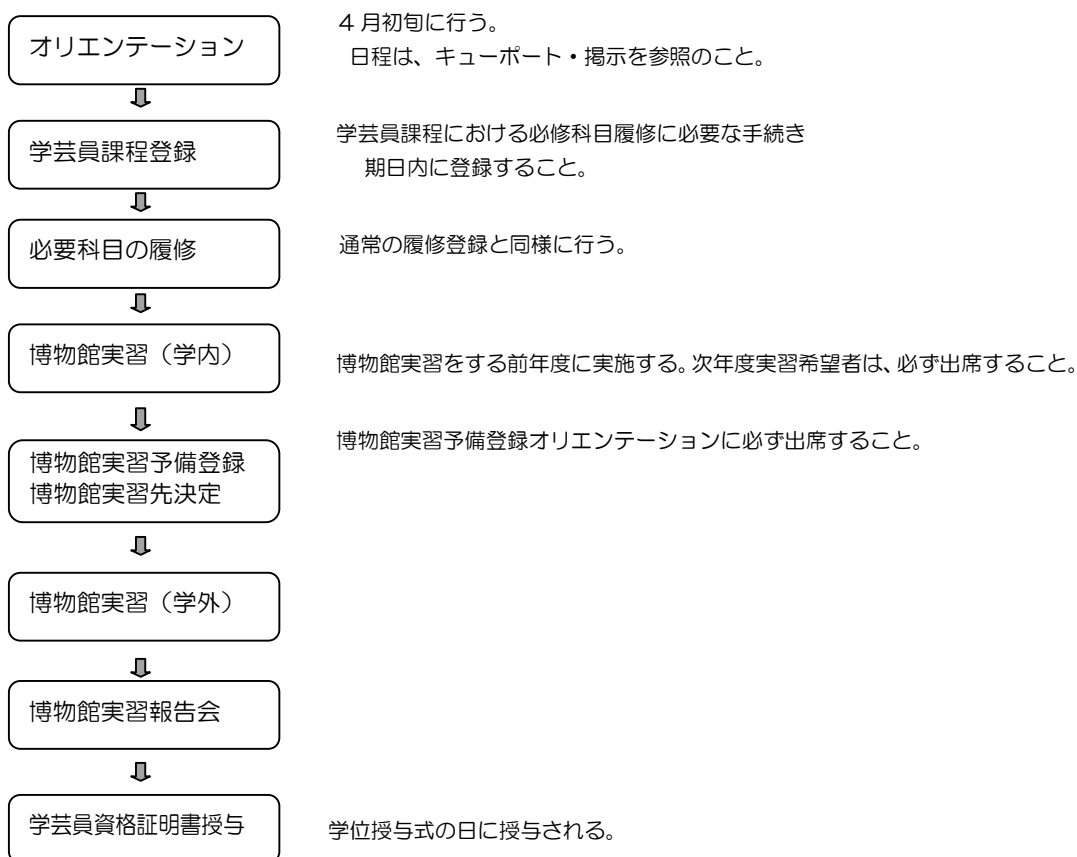


1 学芸員課程 (Curator Training Course)

博物館学芸員とは、博物館（美術館、資料館、郷土館、動物園、水族館等も含む）において、博物館法第4条第3項、第4項に規定されている資料の収集、保管、展示及び調査研究、その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる職員のこと、本課程では、その養成を目的としている。

学芸員資格取得のためには、必ず『学芸員の手引き』を参照すること。

2 学芸員課程登録～学芸員資格取得までの流れ



3 学芸員課程の登録

学芸員課程の必修科目を履修するには、学芸員課程登録をしなければならない。登録は何年次でも可能だが、登録希望者は、毎年4月初旬に行われる学芸員課程オリエンテーションに出席すること。

学芸員課程登録に必要なものは、以下のものである。

- － 学芸員課程登録票（所定書式）
- － 学芸員課程費 10,000円

（いったん納入した学芸員課程費は返却しない）

4 必要な単位数

博物館法に基づく、本学での学芸員資格に必要な単位数が以下の通りである。

基礎資格	学芸員課程必修科目	選択科目
「学士」の学位を有すること	19	選択科目領域の2領域以上にわたって履修すること。 ※選択科目の履修については、各学科の指導によるものとする。 (建築学部学生は、「文化史」6単位を必ず修得すること)

※ 詳細は、『学芸員の手引き』を参照のこと。

5 博物館実習（学内演習）について

博物館実習（学内演習）は、面接を兼ねた博物館実習（学外実習）の事前指導である。3年次以上の学生を対象とする。必修科目の修得状況を確認することもあるので、計画的に単位修得しておくこと。

また、講義はリレーショナルデータベースの取扱を含む。一般的なワープロソフト、表計算ソフトが使用できることが前提に講義・演習が実施される。

6 学外実習予備登録について

博物館実習生としての自覚を喚起し、実習館への円滑な推薦作業が行えるよう、博物館実習（学外実習）に向けたオリエンテーションを行い、その後、キューポートより学外実習予備登録を行う。

詳細は、オリエンテーションでの説明となるため、必ず出席すること。

7 博物館実習（学外実習）について

4年次以上（卒業論文着手者）を対象とする。下記のプロセスを踏んだ学生に限る。

博物館実習（学内実習） → 学外実習予備登録オリエンテーション出席 → 学外実習予備登録

その後、実習館に推薦され、博物館実習（学外実習）を行うことができる。

博物館実習費用

博物館実習費	20,000円
--------	---------

(いったん納入した博物館実習費は返却しない)

博物館実習（学外実習）終了後、報告会が行われる。

8 学芸員資格証明書の発行について

学芸員の資格取得に必要な所定の単位数を修め、卒業が確定した者に対し、学位授与式の日配付する。



1 社会貢献活動支援士 課程 (Social Service Activity Support Specialist Course)

社会貢献活動支援士とは、防災・減災、社会貢献や環境の専門的知識と能力を身につけ、災害やボランティアの現場でリーダーシップを取り活動することができる人材であることを認定する資格である。社会貢献活動支援士課程では、「社会貢献活動支援士」資格取得のため、専門知識のみならず、実習・演習を通じて、即戦力として、社会に貢献するマインドと能力を持ち、また、自らテーマを設定し、プロジェクトを立ち上げ、それを実行していく人間力を持つ人材を育成・輩出することを目的とする。

本カリキュラムは、これまで本学にない他の2大学のカリキュラムと本学のカリキュラムを組み合わせた共同カリキュラムで構成されており、定められた履修条件をクリアすると、社会貢献活動支援士の受験資格が与えられる。資格試験は条件を満たした学生に対して、3年次から受験できるように準備を進めており、この社会貢献活動支援士を取得後、就職活動で履歴書等に本資格を明記し、防災や減災、社会貢献、ボランティアなどについて実践力のある学生であることを示す資格となる。第1回の資格試験は、2012年2月25日に実施した。

本課程の科目は、東北福祉大学、工学院大学、神戸学院大学が3大学連携に関する協定書に基づき、提供される。3大学により提供される必修・選択科目は、遠隔システムにより3大学同時に受講することができる連携共同科目と、実習・演習のように各大学内で行われる実習科目、夏期・冬期休暇を利用して各大学で行われるスクーリング・集中講義の科目により構成される。

社会貢献活動支援士資格はカリキュラムに定められた必修科目及び選択科目の履修を要件とする。必要単位を修得した者には認定試験の受験資格が与えられ、社会貢献学会が実施する認定試験合格後、社会貢献学会により「社会貢献活動支援士資格証明書」を発行する。

履修に関しての詳細は、別冊『社会貢献活動支援士課程の手引き』やホームページ(<http://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk/>)を参照すること。なお、随時掲示板による指示等に注意してほしい。社会貢献活動支援士に関する相談等は、教務部八王子教務課・新宿教務課、TKK 助け合い連携センターに問い合わせること。

なお、本課程は、平成21年度の文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に、東北福祉大学を代表校とし、神戸学院大学と工学院大学(本学)との3校連携プロジェクトとして取り組む「防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開」が選定され、その取組として「社会貢献(防災・減災、ボランティア、社会環境)」のための専門カリキュラムとして3大学共同で開発・実施するものである。

(1) 社会貢献活動支援士課程の登録

社会貢献活動支援士課程の履修にあたっては、課程登録を必要とする。登録は何年次でもできる。

(2) 資格取得のための単位の履修について

専門カリキュラムの所定科目を履修することで、「社会貢献活動支援士」受験資格を得ることができる。さらに検定試験に合格した者に対して「社会貢献活動支援士」を認定する。

受験資格取得のためには、必修科目に加え、下記に示す科目種類ごとの必要科目数を履修する必要がある。下図に示すようにこの必要科目数は、自身の大学の科目を4単位(2科目)以上、他の2大学の科目をそれぞれ4単位(2科目)以上、合計12単位(6科目)とする。「関連実習科目」として、共通実習科目あるいは各大学で開講される本カリキュラムと関連した実習・演習科目を3単位(2科目)以上履修すること。なお、ここで履修した他大学科目について「表：単位算入について」に示すように、工学部建築系学科(2009年度以降入学生)と建築学部のみ自由枠に算入される。本学提供科目については、学生便覧の工学部建築系学科、建築学部に記載されている内容に従う。

社会貢献に関する科目	2単位以上(1科目以上)
防災・減災に関する科目	2単位以上(1科目以上)
ボランティアに関する科目	2単位以上(1科目以上)
環境に関する科目	2単位以上(1科目以上)
国際協力に関する科目	2単位以上(1科目以上)

表：科目種類と科目名、提供大学、提供開始年度について

科目種類	科目名	提供大学	単位	提供開始年度*
社会貢献に関する科目	社会調査法	東北福祉大学	4	2010年度
	NPO論	東北福祉大学	2	2010年度
	社会貢献学入門	工学院大学	2	2010年度
	社会防災の基礎Ⅰ	神戸学院大学	2	2015年度
防災・減災に関する科目	地域減災論Ⅰ	東北福祉大学	2	2010年度
	地域減災論Ⅱ	東北福祉大学	2	2010年度
	災害福祉論Ⅱ	東北福祉大学	2	2014年度
	救急処置法	東北福祉大学	2	2010年度
	減災学入門	工学院大学	2	2010年度
	建築の安全	工学院大学	2	2013年度
	地震工学	工学院大学	2	2010年度
	災害危機管理	工学院大学	2	2014年度
	地域の安全	工学院大学	2	2013年度
	減災学	工学院大学	2	2010年度
	防災行政学Ⅰ	神戸学院大学	2	2010年度
	災害分析の基礎	神戸学院大学	2	2015年度
	ボランティアに関する科目	ボランティア活動論	東北福祉大学	2
ボランティア論		東北福祉大学	2	2014年度
災害ボランティア学		神戸学院大学	2	2010年度
環境に関する科目	環境ボランティア論	東北福祉大学	2	2010年度
	環境福祉論	東北福祉大学	2	2010年度
	地域住環境計画	工学院大学	2	2013年度
	構造材料施工	工学院大学	2	2013年度
	環境政策ビジネス論	神戸学院大学	2	2010年度
	環境情報学	神戸学院大学	2	2010年度
国際協力に関する科目	国際情勢論	神戸学院大学	2	2010年度
	開発教育学	神戸学院大学	2	2010年度
	国際協力論Ⅰ	神戸学院大学	2	2010年度
	社会防災特別講義Ⅱ	神戸学院大学	2	2015年度
	社会貢献論Ⅱ	神戸学院大学	2	2010年度

*:調整中のため、2014年度に遠隔システムによる配信を行わない科目もあります。()内は履修学年。

表：実習科目について

科目名	実施大学	単位	備考(提供開始年度)
福祉ボランティア活動Ⅰ	東北福祉大学	1	共通実習(2010年度)
福祉ボランティア活動Ⅱ	東北福祉大学	1	共通実習(2010年度)

科目名	実施大学	単位	備考（提供開始年度）
福祉ボランティア活動Ⅲ	東北福祉大学	1	共通実習（2010年度）
福祉ボランティア活動Ⅳ	東北福祉大学	1	共通実習（2010年度）
減災・予防福祉演習Ⅰ	東北福祉大学	2	（2010年度）実施大学のみ
減災・予防福祉演習Ⅱ	東北福祉大学	2	（2010年度）実施大学のみ
減災・予防福祉演習Ⅲ	東北福祉大学	2	（2010年度）実施大学のみ
建築情報処理Ⅱ	工学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
社会貢献実習Ⅰ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
社会貢献実習Ⅱ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
社会貢献実習Ⅲ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
救命処置演習	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
防災実習Ⅱ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
防災実習Ⅲ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
国内実習Ⅱ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
海外実習Ⅱ	神戸学院大学	2	（2010年度）実施大学のみ
プロジェクト実習	神戸学院大学	1	共通実習（2010年度）

社会貢献活動支援士課程に関連する科目について、履修単位の算入に関しては以下の表に従う。したがって、他大学配信科目については、基本的に2009年度以降入学の建築系学科、2011年度以降の建築学部の学生を対象として、自由枠に算入される。本学配信科目については、通常の本学実施科目となるため、履修単位の算入条件については、対象となる学部・学科の学生便覧の内容に従う。

表：単位算入について

学部・学科	工学院大学 配信科目	他大学配信科目
工学部建築系学科 （2009年度以降入学学生）	学科の学生便覧に従う	自由枠に算入できる
建築学部 （2011年度以降入学学生）	学部の学生便覧に従う	自由枠に算入できる
上記学部・学科以外	学科・学部の学生便覧に従う	単位に算入されない。

時間割りと授業時間については、3大学連携授業では、各大学の授業開始時間が異なるため、1限目から3限目を中心に遠隔授業を行う。1限目から3限目間の開始時間と終了時間は下記の通りとする。それ以外の時間に3大学連携授業を実施する場合は、実施大学の時間帯に合わせて行う。

- 1 限目：8：50～10：20
- 2 限目：11：00～12：30
- 3 限目：13：20～14：50

カリキュラム

社会貢献学入門（3大学共通・必修）2単位（1科目）

自身の大学が提供する連携共同科目を4単位（2科目）以上、
他2大学が提供する連携共同科目を各4単位（2科目）
（計8単位（4科目））以上選択

東北福祉大学

ボランティア活動論
地域減災論Ⅰ
地域減災論Ⅱ
災害福祉論Ⅱ
社会調査法
救急処置法
NPO論
環境ボランティア論
環境福祉論
ボランティア論

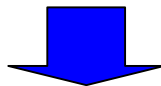
工学院大学

減災学入門
地域住環境計画
構造材料施工
建築の安全
地震工学
災害危機管理
地域の安全
減災学

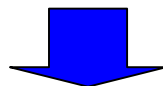
神戸学院大学

国際情勢論
防災行政学Ⅰ
災害分析の基礎
災害ボランティア学
社会防災の基礎Ⅰ
社会防災特別講義Ⅱ
社会貢献論Ⅱ
開発教育学
国際協力論Ⅰ
環境政策ビジネス論
環境情報学

共通実習科目あるいは各大学で開講される実習・演習から3単位
（2科目）以上選択



「社会貢献活動支援士」認定試験



「社会貢献活動支援士」

図：社会貢献活動支援士課程における科目構成について

(3) 本学で履修可能な科目について

社会貢献活動支援士課程に関する科目について、本学で2014年度に受講可能な科目を以下に示す。科目の実施キャンパスについては、基本的に対象となる学年でのキャンパスで実施を予定しているが、他の授業や履修登録の状況などにより、異なる可能性がある。このため、詳細についてはガイダンスで説明するので、履修予定者は必ず参加すること。

必修科目：遠隔システムにより実施

提供する大学	講義名・(単位数)	備考
工学院大学	社会貢献学入門 (2)	3大学共同提供科目

連携共同科目：遠隔システムにより実施

提供する大学	講義名・(単位数)	備考
東北福祉大学	地域減災論Ⅱ(2)、ボランティア活動論(2)、ボランティア論(2)*	*2015年度開講
工学院大学	地域住環境計画(2)、構造材料施工(2)、建築の安全(2)、地震工学(2)、災害危機管理(2)*、地域の安全(2)	*2015年度開講
神戸学院大学	国際情勢論(2)、防災行政学Ⅰ(2)、災害分析の基礎(2)**、社会防災の基礎Ⅰ(2)**、社会防災特別講義Ⅱ(2)、社会貢献論Ⅱ(2)、開発教育学(2)、環境政策ビジネス論(2)、環境情報学(2)、国際協力論Ⅰ(2)	**隔年配信となり、2015年度は実施しない。

調整中のため、2015年度に遠隔システムによる配信を行わない科目もあります。

集中講義科目：各大学で夏期・冬期、数日間に期間を集中して実施

提供する大学	講義名・(単位数)	備考
東北福祉大学	地域減災論Ⅰ(2)、NPO論(2)*、環境ボランティア論(2)*、災害福祉論Ⅱ(2)*	*遠隔システムにより配信予定
工学院大学	減災学入門(2)、減災学(2)	
神戸学院大学	災害ボランティア学(2)	

実習・演習科目：提供大学で実施

提供する大学	講義名・(単位数)	備考
東北福祉大学	福祉ボランティア活動Ⅰ(1)*、福祉ボランティア活動Ⅱ(1)*、福祉ボランティア活動Ⅲ(1)*、福祉ボランティア活動Ⅳ(1)*	*遠隔システムを利用するため、本学での受講可能
工学院大学	建築情報処理Ⅱ(2)*	
神戸学院大学	プロジェクト実習(1)**	**遠隔システムにより実施予定

必・選 別	授業科目			標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)												備考	
	科目名	大学	単位 数	1年			2年			3年			4年				
				前	後	集中	前	後	集中	前	後	集中	前	後	集中		
選択 科目	環境福祉論	東北福祉大学	2				1										実施大学のみ
	救急処置法	東北福祉大学	2					1									実施大学のみ
	防災実習Ⅲ*	神戸学院大学	2				2										実施大学のみ
	社会貢献実習Ⅲ*	神戸学院大学	2				2										実施大学のみ
	災害ボランティア学	神戸学院大学	2						1								夏期スクーリング
	国内実習Ⅱ*	神戸学院大学	2						1								実施大学のみ
	海外実習Ⅱ*	神戸学院大学	2						1								実施大学のみ
	地域防災論Ⅱ*	東北福祉大学	2								1						
	建築情報処理Ⅱ*	工学院大学	2								2						実施大学のみ
	地域住環境計画	工学院大学	2								1						
	構造材料施工	工学院大学	2								1						
	建築の安全	工学院大学	2								1						
	地震工学	工学院大学	2								1						
	地域の安全	工学院大学	2								1						
	減災学	工学院大学	2									1					夏期集中講義
	減災・予防福祉演習Ⅲ*	東北福祉大学	2								1						実施大学のみ
	福祉ボランティア活動Ⅲ*	東北福祉大学	1								1						共通実習科目
	災害危機管理	工学院大学	2								1						2014年度開講
福祉ボランティア活動Ⅳ*	東北福祉大学	1										1				共通実習科目	

*Ⅰ、Ⅱのように連続する科目については、基本的に順番どおりに履修する必要はない。しかし、シラバスに「〇〇Ⅰを履修していること」などの条件がある場合はそれに従う。

太字は2015年度工学院大学でも受講できる科目(調整中の科目も含む)